

昭和參年度

水稻新品種育成試驗設計

島根縣立農事試驗場

目次

- (一) 試驗要項
- (二) 試驗方法
- (三) 試驗計劃

頁次

一 三 一

一 試驗要項

一 多肥栽培ニ依ル交配用品種選定試驗

目的 耐肥性強キ新品種ノ育成ニ供用スベキ人工交

配用母本ヲ選定セントス。

二 標準栽培ニ依ル雜種第四代以後系統育成試驗

目的 標準栽培ニ依リ雜種才四代以後ノ系統ニ

付キ優良系統ヲ育成セントス。

三 多肥栽培ニ依ル雜種第四代以後系統育成試驗

目的 多肥栽培ニ依リ雜種才四代以後ノ系統ニ

付キ優良系統ヲ育成セントス。

四 標準栽培ニ依ル未固定系統生産力檢定試驗

目的 標準栽培ニ依リ未固定系統ノ生産力其他

ヲ檢定シ新品種決定試驗ニ供用スベキ優良

系統ヲ選定セントス。

五 多肥栽培ニ依ル未固定系統生産力檢定試驗

目的 多肥栽培ニ依リ未固定系統ノ生産力其

他ヲ檢定シ新品種決定試驗ニ供用スベキ優良

系統ヲ選定セントス。

(一) 試驗方法
一、耕種概観

(1) 試驗圃

(1) 位置 島根縣簸川郡塩石村

(2) 全面積 一町二反歩

(3) 區劃 十二間幅ノ方形ニ区劃シ六間宛ニ区ニ使用ス

(4) 前作関係 前作 紫雲英

(2) 種子ノ豫措

(1) 選種 比重大一三ノ苦塩汁選

(2) 浸種 五晝夜桶浸ヲ行ヒ毎日換水ス

(3) 苗代

(1) 耕起 早春水ヲ灌ギ前年ノ脱落穀ヲ発芽セシメ次デ稻株ヲ拔取
リ後淺ク耕起シ土壤ノ乾燥スル見計ヒテ再耕シ土壤ヲ充分精研ス

(2) 整地 播種(週間前)灌水シ代播ヲ行ヒ能ク攪拌シテ播幅四
尺ニ踏切り溝(尺長)ヲ適當ノ短冊形トス

(4) 肥料 (坪当反)

肥料名	元肥	追肥	合計	四要素量
硫酸安母尼亞	三五反	—	三五反	窒素 一〇.二五反
大豆粕	五〇	—	五〇	磷酸 一〇.〇三
過磷酸石灰	三〇	—	三〇	加里 一〇.〇五
硫酸加里	一〇	—	一〇	石灰 一.一五
藁灰	一〇〇	—	一〇〇	

(5) 施肥期及施肥法 播種ニ三日前所要ノ硫酸、大豆粕、過磷
酸石灰、硫酸加里、藁灰ヲ床面ニ撒布シ輕ク土壤ヲ搔キ均ラヌ

(6) 播種期 五月一日

(7) 播種量 坪当生収ニ合

(1) 播種法 床面ノ水ヲ排シ指紋ノ附ク程度ニ乾カシテ厚薄ナク播
下シ種粒ノ隠ルノ程度ニ深キ込ミ粒ノ浮遊スルヲ防グ

(2) 管理 播種後數日間ハ發芽ヲ整ヘナラシムル為メ床面一
ノ深サニ種米シ其後ハ夜間風雨及寒冷ノ日ヲ除キ成可ク淺水トシ
溫暖ナル日ハ朝一寸内外ノ深サ水ヲ張リ之ヲ放置シテ自然減水トシ
床面ヲ飽和濕潤ノ状態ニ保タシム尚禱及雜草ノ除去ヲ努メ移植
前ハ特ニ注意ス又五月下旬ヨリ毎日一回捕網ヲ以テ害蟲ヲ採取
リ六月ヨリハ螟蟲採取ヲ行フ其他害蟲發生シタル時ハ適宜ニ
駆除ス

(3) 本田
(4) 耕起 五月下旬綠肥收穫後堆肥及綠肥ヲ撒布シ荒起ヲナシ
土塊ノ乾燥スルヲ待チテ切返シヲ行ヒ土塊ヲ粉碎ス
(5) 整地 六月上旬畦畔ヲ塗リ後灌水シテ表土ヲ混和シラ、田面
ヲ均ラス

(6) 試驗區ノ形狀 一畦ノ長サ六間 五畦宛栽植シハ三坪ヲ試
驗区トシ殘リヲ畚外トス

(7) 插秧 插秧期 六月十日ヨリ同十四日迄
苗化日數 四十一日乃至四十五日
插秧樣式 一株本數三本 一坪株數四十九株
栽植距離 八寸五分七厘平方

(8) 肥料 (反當、母質)

肥料名	元肥	追肥	追肥	合計	四要素分量
堆肥	三〇〇〇〇	—	—	三〇〇、〇〇〇	窒素三、一八〇
紫雲英	一〇〇、〇〇〇	—	—	一〇〇、〇〇〇	磷酸二、五〇〇
硫酸銨母尼亞	—	二、〇〇〇	—	二、〇〇〇	加里三、八五〇
強過燐酸石灰	—	三、九〇〇	三、九〇〇	七、七〇〇	石灰五、五五〇 (酸化石灰)

撒大豆粕	—	10,000	—	10,000
硫酸加里	—	—	3,000	3,000
石灰	10,000	—	—	10,000

施肥期及施肥法 五月下旬本田裏回耕起、際堆肥及紫雲英ヲ施シ次ニ再耕、際石灰ヲ施ス。插秧後十五日及三十日目ニ夫々上記ノ肥料ヲ追肥ス。

(1) 除草 第一回 田打車 六月下旬
第二回 八反摺 七月上旬
第三回 手取 七月中旬
第四回 手取 七月下旬

(2) 管理 灌溉水 插秧當時稍々深水トシ、苗ノ活着後ハ可ク淺水トシ、温暖ナル日ハ排水シテ地温ノ上昇ニ努メ、穂乃子ヨリ水ヲ深ク張リ、穂揃後ハ淺水トシ穂首ノ傾垂シタル頃若水ス。

病虫害ノ聽除 移植後ハ常ニ注意シテ螟虫ニ及被害茎ノ驅除除去ニ努メ、特ニ第三化期ニ於テル葉鞘変色茎ノ摘採ヲ行フ。其他ノ病虫害驅除豫防ハ適宜処置ス。

(3) 收穫、乾燥、收納 穂首ノ黄変シタル頃刈取り三週間内外、投掛箱架ニテ乾燥シ充分乾燥スルヲ待チテ收納ス。
(4) 收穫物ノ調製 圓轉脱穀機(丸宮式)ニテ脱穀シ、單相モーター用岩田式穀剝機ニテ穀摺ス。

二 各試驗特別耕種法

(1) 交配用品種選定試驗

(11) 本田肥料(反当費)

肥料名	元肥	追肥	追肥	合計	四要素量
堆肥	600,000	—	—	600,000	窒素 7.75
		插秧後 30日	插秧後 30日		

此尔雲英	二〇〇〇〇	—	—	二〇〇、〇〇〇	磷酸三七六
硫酸安母尼亞	—	三九八七	三九八八	七九七五	加里五七九二
撒大豆粕	—	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	四〇、〇〇〇	石灰五五五〇 (酸化石灰)
強過燐酸石灰	—	三九〇〇	三八〇〇	七七〇〇	
硫酸加里	—	—	一四〇〇	一四〇〇	
石灰	一〇、〇〇〇	—	—	一〇、〇〇〇	

① 標準栽培ニ依ル雜種第四代以後系統育成試驗

② 試驗区ノ形状 一畦ノ長廿四間ニテ四畦宛又ハ一畦ノ長廿六間ニテ

ニ畦宛

③ 挿秧 挿秧機式 一本植、新植距離畦間一尺株間五寸

坪七十二株植

④ 多肥栽培ニ依ル雜種第四代以後系統育成試驗

⑤ 試驗区ノ形状 前項標準栽培ニ依ルモノト同シ

⑥ 挿秧 全上

⑦ 本田肥料 (反当貴)

肥料名	元肥	追肥	追肥	合計	四要素量
堆肥	六〇、〇〇〇	—	—	六〇、〇〇〇	窒素系六二二〇
此尔雲英	二〇、〇〇〇	—	—	二〇、〇〇〇	燐酸五〇〇二
硫酸安母尼亞	—	二〇〇〇	二〇〇〇	四、〇〇〇	加里七七〇〇
撒大豆粕	—	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	石灰一八〇〇 (酸化石灰)
強過燐酸石灰	—	七七〇〇	七七〇〇	一五、四〇〇	
硫酸加里	—	三〇〇〇	三〇〇〇	六、〇〇〇	
石灰	二〇、〇〇〇	—	—	二〇、〇〇〇	

⑧ 多肥栽培ニ依ル未固定系統生産力檢定試験

⑨ 本田肥料 前項多肥栽培ニ依ル系統育成試験ノモノト同シ

三 各試驗栽植標準

栽植	畦間×株間	區株數	畦數	區面積	區制	標準區設置	備考
一、交配用品種選定試驗							
三本植	八寸五方產 六寸五方產	二百十株	五畦	四坪	一區制	五區每	
二、雜種第四代以後品種育成試驗(標準及多肥栽培)							
一本植	一尺×五寸	百九十二株 百四十四株	四畦 又二畦	二六坪 又二坪		五區 又十區每	
三、未固定品種生產力檢定試驗(標準及多肥栽培)							
三本植	八寸五方產 六寸五方產	百十株	五畦	四坪	一區制	五區每	

四 試驗操作

本為指定「水稻新品種育成」試驗方法「三據」

(三) 試驗計劃

昭和三年度試驗計劃要綱

試驗名	交配組合	系統及品種數	區數	總面積	備考
交配用品種選定試驗		百四十品種	百七十五區	二反五畝步	
多肥栽培(依ルモノ)					
雜種第四代後系統育成試驗					
一標準栽培(依ルモノ)	二十八組合	四百三十三系統	番四區	四反十八步	
二多肥栽培(依ルモノ)	二十組合	三百九十三系統	番四十四區	三反六畝三三歩	
合計	二十九組合	七百三十三系統	八百十八區	六反七畝十一歩	
未固定品種生產力檢定試驗					
一標準栽培(依ルモノ)	十三組合	三十四系統	四十四區	六畝三十六歩	
二多肥栽培(依ルモノ)	十三組合	三十二系統	四十四區	六畝十八歩	
合計	十四組合	六十六系統	八十四區	二反三畝十四歩	

二	八反草	〃	〃	〃	同在	
一	大場	早	二年目	兵庫農試(昭和三年)		
	北部二号	晚				標準乙
	愛國一号	早				標準甲

多肥栽培根元交配用品種検定試験 供試材料(昭和三年)

一頁目

合計	二年目				計
	計	晚	中	早	
一四三	一一五	六四	三五	一五	二六
一七六	一一五	六四	三五	一五	二六

一年目	一年目				計
	晚	中	早	計	
六	一七	三	二	一	一
六	一七	三	三五	三〇	五

多肥栽培根元交配用品種検定試験設計概要(昭和三年度)

二名試験設計

總計	交配用品種	百四十一品種
	第四代以後	百七十五区
未固定番号	十四組合	八十四区
	二十九組合	百四十八区
百四十一品種		一町五畝三十步

昭和三年

三二	三一	〇	九	六	七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	〇	一九	一八
島根愛國	早一五号	早北部	早八号	早北部	改良早稻	倒六	中生神力	早生神力	中北部	中國	交第四四号	伊二五七A	早稻万作	石白
中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	年月目
本縣 (全)	葛城内支場 (全)	本縣 (全)	兵庫農試 (全)	兵庫農試 (全)	本縣 (全)	兵庫農試 (全)	兵庫農試 (全)	本縣 (全)	本縣 (全)	兵庫農試 (全)	當場 (全)	當場 (全)	兵庫農試 (全)	新潟農試(昭和三年)

一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三
交第三四八号	新母里早稻	八反五号	矢戶早稻一号	有田一号	交第九九号	島根一号	船末早稻	中生愛國	交第四三四号	新早稻	八反流二号	八反流一号	牛若	早大場
中	早	中	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早	早
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	年月目
當場 (全)	本縣 (全)	兵庫農試 (全)	當場 (全)	京都農試 (全)	當場 (全)	當場 (全)	本縣 (全)	兵庫農試 (全)	當場 (全)	本縣 (全)	當場 (全)	山口農試 (全)	京都農試(昭和三年)	

九六	九一	九〇	八九	八八	八七	八六	八五	八四	八三	八二	八一	八〇	七九	六
交第八一号	長一本	宮内坊主	大正神力	神西一本	六石	白珍子	交第八三号	交第十五号	堂西	島根三号	新二本	中六九号	二本子	龜治
晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	二年目
当场(全)	本縣(全)	福井農試(全)	本縣(全)	本縣(全)	本縣(全)	福井農試(全)	当场(全)	当场(全)	本縣(全)	当场(全)	本縣(全)	当场(全)	本縣(全)	当场(昭和三十九年)

七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	〇
大錦	交第二〇四号	實夫	牛若丸	福之神三号	早竹成	江州	都一号	大和白山三号	白久伊之山	横綱	龜治一号	中熟神力号	福之神一号	交第百四号			
晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚	晚
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	二年目
本縣(全)	当场(全)	本縣(全)	本縣(全)	京都農試(全)	福井農試(全)	兵庫農試(全)	京都農試(全)	京都農試(全)	本縣(全)	本縣(全)	当场(全)	京都農試(全)	京都農試(全)	当场(昭和三十九年)			

一〇八	旭一号	晚	二年目	京都農試(昭和二年)
一〇九	畿内探出	晚	左	本縣(左)
一一〇	朝日	晚	左	本縣(左)
一一一	交第五八号	晚	左	当場(左)
一一二	交第七一号	晚	左	当場(左)
一一三	交第二三五号	晚	左	当場(左)
一一四	勸業探出	晚	左	鳥取農試(左)
一一五	武作撰一号	晚	左	山口農試(左)
一一六	刈羽神種	中	(年目)	新潟農試(昭和二年)
一一七	無芒愛國	中	左	新潟農試(左)
一一八	改良愛國	中	左	新潟農試(左)
一一九	関取新三四号	中	左	新潟農試(左)
一二〇	銀坊主	中	左	新潟農試(左)
一二一	京旭	晚	左	岐阜農試(左)
一二二	白玉	晚	左	岐阜農試(左)

九三	大石	晚	二年目	福井農試(昭和二年)
九四	塩田	晚	左	福井農試(左)
九五	白亀池	晚	左	本縣(左)
九六	改良薄皮	晚	左	福井農試(左)
九七	平一本	晚	左	本縣(左)
九八	新山	晚	左	本縣(左)
九九	晩生神力一号	晚	左	山梨農試(左)
一〇〇	改良関取	晚	左	本縣(左)
一〇一	島根五号	晚	左	当場(左)
一〇二	南部	晚	左	本縣(左)
一〇三	交第二四号	晚	左	当場(左)
一〇四	交第七八号	晚	左	当場(左)
一〇五	江原撰	晚	左	本縣(左)
一〇六	濱一本	晚	左	本縣(左)
一〇七	神力一号	晚	左	京都農試(左)

一三三	倒十	晚	一年目	岐阜農試(昭和三年)
一三四	八ッ盾	中	左	岐阜農試(左)
一三五	善光寺	中	左	岐阜農試(左)
一三六	明德	中	左	岐阜農試(左)
一三七	龜治一号	晚	左	鳥取農試(左)
一三八	奥州一号	中	左	鳥取農試(左)
一三九	晚生愛國	中	左	宮城農試(左)
一四〇	早生愛國	早	左	宮城農試(左)
一四一	出雲十号	早	左	兵庫農試(左)
一四二	改良愛國	中	左	兵庫農試(左)
一四三	丹後中稻一号	中	左	兵庫農試(左)
一四四	文既三二号	早	左	高知農試(左)
一四五	仁井	中	左	高知農試(左)
一四六	愛國七六号	中	左	高知農試(左)
一四七	銀坊主	中	左	高知農試(左)

一三八	蒸留膏三三号	晚	一年目	熊本農試(昭和三年)
一三九	早生剛力	中	左	熊本農試(左)
一四〇	神力二六号	晚	左	熊本農試(左)
一四一	改良大場	中	左	熊本農試(左)

〔設備八号甲〕
 雜種第四代以後系統育成試驗計畫概要(昭和三年度)

標準栽培		栽培條件	世代	系配組合數	親系統數	当該世代系統數	備考
計	第九代	第八代	第七代	第六代	第五代	第四代	
二八	一	一	一	八	二	一五	
五〇	二	二	二	一四	四	二六	
四三五	一〇	三〇	一〇	九五	二五	二六五	
供用面積(畝)							

第代	第代	第代	第代
標父母	標父母	標父母	標父母
五八 系統群	五七 系統群	五八 系統群	五五 系統群
豐國 福岡 愛國一 總系五五	細釋坊主 愛國一 總系五五 全五四六	愛龜 北部二 總系四六 全四八五	愛國一 鴻系三三 全三九八
	二	二	二
一區 系	一區 系 五系 五系 一〇系	一區 系 五系 五系 一〇系	一區 系 五系 五系 一〇系

第代	第代	第代	第代
標父母	標父母	標父母	標父母
五四 系統群	五三 系統群	五二 系統群	五一 系統群
大場 女 二合半 愛國一 鴻系三三 全三四三	竹成 荒木 北部一 鴻系八七 全八八	白 換一 北部二 鴻系七四 全七七六	白 換一 北部二 鴻系七四 全七七七
	二	二	二
一區 系	一區 系 五系 五系 一〇系	一區 系 五系 五系 一〇系	一區 系 五系 五系 一〇系

	第四代	第四代	第四代	第四代
父母	F ₄ 標準父母	F ₄ 標準父母	F ₄ 標準父母	F ₄ 標準父母
	系統群 七一九	系統群 六	系統群 五	系統群 四
合計	晚稻神力 竹成 北部二號 鴻系八四五號 今八五五號 今九〇一號	早稻神力 穀良都 北部二號 鴻系八九三號	穀良都 愛國 北部二號 鴻系六九號	中稻神力 雄野 北部二號 鴻系五三號
愛國 上州				
	二	二	二	二
	一區 一區 一區 一區 一區 一區	一區 一區 一區 一區 一區 一區	一區 一區 一區 一區 一區 一區	一區 一區 一區 一區 一區 一區

	第四代	第四代	第四代	第四代
父母	F ₄ 標準父母	F ₄ 標準父母	F ₄ 標準父母	F ₄ 標準父母
	系統群 二三	系統群 一	系統群 鴻系二七四號	系統群 鴻系一三三號
合計	中稻神力 神力 北部二號 鴻系二七四號 今二七五號	早稻神力 神力 北部二號	鴻系二七四號	鴻系一三三號 今一六五號
	二	二	二	二
	一區 一區 一區 一區 一區 一區	一區 一區 一區 一區 一區 一區	一區 一區 一區 一區 一區 一區	一區 一區 一區 一區 一區 一區

多肥栽培依雜種第四代以後系統育成試驗供試材料
(昭和三年度)

	第四代	第四代	第四代
父母	F ₄ 標準父母	F ₄ 標準父母	F ₄ 標準父母
	系統群 六七	系統群 鴻系一三三號	系統群 今一六五號
合計	北部二號	鴻系一三三號 今一六五號	
	二	二	二
	一區 一區 一區 一區 一區 一區	一區 一區 一區 一區 一區 一區	一區 一區 一區 一區 一區 一區

第6代	第6代	第6代	
F ₆ 標準父母	F ₆ 標準父母	F ₆ 標準父母	
系統群 三八九 無芒愛國 早生神力 北部二号 鴻原六十一号 左六十七号 左六十七号	系統群 三七 豐國 細輝坑主 北部二号 鴻原五二号 左五二二号	系統群 三六 極穂 北部二号 鴻原四六号 左四八六号	合計 鴻原四三六号
	二	二	二
五系 五系 五系 二区	一〇系 五系 五系 一區	一〇系 五系 五系 一區	一〇系 五系

第6代	第6代	第6代	
F ₆ 標準父母	F ₆ 標準父母	F ₆ 標準父母	F ₅ 系統群
系統群 三五 女談 龜尾 北部二号 鴻原四九号	系統群 三四 大場 北部二号 鴻原三九号 左四九号	系統群 三三 愛國一号 鴻原三三三号 左三六四号	合計 鴻原八八号 左八九号
	二	二	
五区 一區	一〇系 五系 五系 一區	一〇系 五系 五系 一區	一五系 五系 五系

標準栽培	栽培條件	未固定系統生產力檢定試驗計畫概要 (昭和三年度)			
	試驗年次	第一年度			
	世代	第九代	第八代	第七代	第六代
	系統組合數	1	1	1	8
	系統數	2	6	2	19
區制	1區制	1區制	1區制	1區制	
備考					

第一年度 (昭和三年度) 未固定系統生產力檢定試驗計畫概要 (昭和三年度)

系統	第九代	第八代	第七代	第六代
標準	系統群	系統群	系統群	系統群
合計	1	1	1	8
系統數	2	6	2	19
區制	1區制	1區制	1區制	1區制
備考				

系統	第九代	第八代	第七代	第六代
標準	系統群	系統群	系統群	系統群
合計	1	1	1	8
系統數	2	6	2	19
區制	1區制	1區制	1區制	1區制
備考				

	連系	七五六号	区	一系
		七四六号	区	
		七〇七号	区	
		六九七号	区	
		六九四号	区	
		六八二号	区	
		六六二号	区	
		六五二号	区	
		六三六号	区	
		六一二号	区	
		五六五号	区	
		五五五号	区	
		五四六号	区	
		五三〇号	区	
		四八五号	区	
		四六四号	区	
		三九八号	区	
		三七九号	区	
		三七三号	区	
		三四三号	区	

總計	多肥栽培				合計
	第一目	第五代	第六代	第七代	
	合計	第一代	第二代	第三代	
一四	一三	一	一	八	二
六六	三二	三	三	一九	七
		一區制	一區制	一區制	一區制
供用面積一五三畝十四步	供用面積六畝十八步				供用面積六畝二十六步

標準栽培法 依此未定系統生產力檢定試驗 供試材料 (昭和三年度)

第一年目	試驗年次	供試品種		番号	名称	區数	備考
		區別	系統				
		標準	甲	一	愛國一系	三區	
		標準	乙	二	北部二系	七區	
		連系	八一八号	一系			
			八〇七号	一系			
			七七七号	一系			

左 一三七年ノ F ₆	左 一六五年ノ F ₆	左 一九六年ノ F ₆	左 二二二年ノ F ₆	左 二二八年ノ F ₆	左 二三七年ノ F ₆	左 二四七年ノ F ₆	左 二六八年ノ F ₆	左 二八九年ノ F ₆	左 三〇八年ノ F ₆	左 三二三年ノ F ₆
一系										

多量栽培ニ依ル未固定系統生産力検定試験 供試材料 (昭和三年度)

第一年目	試験年次	區別	供試品種	系統	原産地	備考
標準 標準	甲 乙	一 二	愛國一 北部二	一系 六区	一系	
標準 標準	甲 乙	一 二	愛國一 北部二	一系 六区	一系	

左 四二六年ノ F ₆	左 四六五年ノ F ₆	左 四八六年ノ F ₆	左 五一一年ノ F ₆	左 五三二年ノ F ₆	左 六一一年ノ F ₆	左 六一七年ノ F ₆	左 六三七年ノ F ₆	左 六五四年ノ F ₆	左 六六三年ノ F ₆	左 六七三年ノ F ₆	左 六八三年ノ F ₆	左 六九五年ノ F ₆	左 七二二年ノ F ₆	左 七三八年ノ F ₆	左 七五八年ノ F ₆	左 七六九年ノ F ₆	左 七七八年ノ F ₆	左 七九八年ノ F ₆	左 八〇八年ノ F ₆
一系																			

連 永 四 一 九 年	左 四 〇 九 年	左 三 八 九 年	左 三 六 四 年	左 三 三 四 年	左 三 二 〇 年	左 三 〇 〇 年	左 二 七 九 年	左 二 六 九 年	左 二 五 八 年	左 二 二 九 年
F ₆	F ₅	F ₄	F ₄	F ₄	F ₄	F ₄	F ₄	F ₄	F ₄	F ₄

系
”
”
”
”
”
”
”
”
”
”